

理科「生物基礎」	単位数	2単位
	学科・学年	繊維科・第3学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生命現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。
使用教科書・副教材等	高等学校 改訂生物基礎(第一学習社) 改訂 ネオパルノート 生物基礎 (第一学習社)

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

学期	学習内容	月	学習のねらい	考查範囲
1 学期	第1章 生物の特徴 1. 生物の多様性と共通性 2. 細胞とエネルギー 第2章 遺伝子とその働き 1. 遺伝子の本体の構造 2. 遺伝情報の複製と分配 3. 遺伝情報とタンパク質の合成	4	・地球上のさまざまな環境には、多種多様な生物が生息しており、生物は多様であることを理解する。	中間
		5	・代謝には同化と異化があること、また、代謝に伴うエネルギーの移動にはATPが関わっていることを理解する。	
		6	・ヌクレオチドの構造および、塩基の相補性にもとづくDNAの二重らせん構造について理解する。	期末
7	・多細胞生物では、一部の細胞が分裂して増殖していること、分裂している細胞には細胞周期がみられることを理解する。			
2 学期	第3章 生物の体内環境 1. 体液とその働き 2. 体内環境の維持のしくみ 3. 生体防御	8	・恒常性と体液の種類である血液、組織液、リンパ液について理解する。	中間
		9	・動物の体液の濃度が、自律神経系とホルモンの働きによって調節されていることを理解する。	
		10	・皮膚や粘膜による生体防御について理解する。	
3 学期	第4章 植生の多様性と分布 1. 植生と遷移 2. バイオームとその分布	11	・植生は、相観によって森林・草原・荒原に大別されることを理解する。	期末
		12	・バイオームの概念を理解し、陸上にはその地域に生育する植物を基盤としたさまざまなバイオームが成立することを理解する。	
3 学期	第5章 生態系とその保全 1. 生態系 2. 生態系のバランスと保全	1	・生態系の構成について理解する。	学年末
		2	・生物の個体数や量は、常に一定の範囲内で変動しながらバランスが保たれていることを理解する。	
		3		

(2) 評価の観点及び内容

関心・意欲・態度	・自然の事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。
思考・判断・表現	・自然の事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。
観察・実験の技能	・観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。
知識・理解	・自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査や課題テストにおいて、随時復習事項を出題し、基礎知識の定着を図ります。 ・自然科学が日常生活や現代産業の基礎であることを意識しましょう。 	

3 確かな学力を身に付けるためのアドバイス

<ul style="list-style-type: none"> ・なぜだろうと考える習慣を身に付けよう。 ・授業に集中しよう。そのために予習復習を必ずしよう。 ・ノートは、黒板を写すだけでなく、自分で気のついたことをメモするなど、工夫してまとめよう。
